

平成27年3月4日

保護者のみなさま及び生徒のみなさん

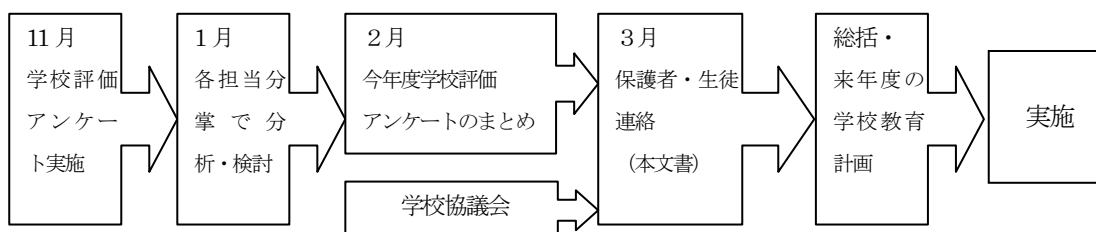
大阪府立寝屋川高等学校
定時制の課程
准校長 中村 泰孝

平成26年度 学校評価アンケート(学校教育自己診断) 回答のまとめ

日頃から本校の教育にご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本校は「勉強がわかる喜び」「人に認められ人と理解し合える喜び」「夢や志を抱く喜び」を伝え、「安全で安心な学校環境づくり」から生徒たちに生き生きとした生活を保障する学校をめざし、さまざまな教育活動に取り組んでまいりました。これらの教育活動を発展させ、積極的に推し進めるため、昨年11月に「学校評価アンケート」を実施し、下記のスケジュールで分析・検討を行いました。このたび、各担当で検討結果をとりまとめましたので、お知らせします。

今後とも豊かで質の高い教育環境づくりをめざしてまいりますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。



生徒回答集計

回答数 144 (提出率 43.8%)

- A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる) (肯定的A-否定的C)前年度との比較・・・ 10%↑、20%↑↑
-10%↓、-20%↓↓
- B: わからない 検討・・・裏面にコメントを掲載している項目
- C: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)

(数値は%)

	設問	A	B	C	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べて受験した。	37	11	52		
2	受検は、自分の意志で決めた。	64	5	31	↓	
3	学校に行くのは楽しい。	47	41	12		生3
4	学校のコース選択や単位取得、選択科目、履修などのガイダンスはわかりやすい。	50	22	28	↑	生4
5	学校には他の学校にない特徴がある。	59	26	15		
6	学校の授業は、教科書以外の教材も使うなどの工夫をしている。	51	25	24	↑↑	生6
7	学校の授業の内容についていける。	56	14	30		生7
8	学校の授業の説明はわかりやすい。	56	13	31		生8
9	学校の授業中は、落ち着いて学習できる。	50	14	36	↑	生9
10	ゼロ時間目の授業と土曜講座を知っている。	64	17	19		
11	ゼロ時間目の授業を受けてみたいと思う。	25	17	58	↓	生11
12	土曜講座を受けてみたいと思う。	18	21	61		生12
13	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	38	30	32		
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	49	28	23		生14
15	ホームルームなどで、自分の将来について考える機会がある。	43	26	31		生15
16	学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。	56	27	17		生16

	設 問	A	B	C	比較	検討
17	体育祭、文化祭などの学校行事はみんなが楽しく行えている。	60	18	22		生 17
18	ホームルーム活動は充実している。	50	26	24		生 18
19	外部(学校外)の講師による講演会は有意義だと思う。	46	30	24		
20	学校生活についての先生の指導については理解できる。	64	15	01		
21	命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。	67	17	16	↑	生 21
22	学校内で地震や火災が起こったとき、どのような行動をすればよいかわ知らされている。	71	16	13		生 22
23	学校の部活動は楽しく、なくてはならないものだ。	50	31	19		
24	担任の先生以外にも職員室、保健室等で気軽に相談することができる先生がいる。	50	26	24		生 24
25	教室や体育館、食堂などの設備は学校生活を送りやすいように整備されている。	60	25	15	↑	
26	教室以外にも生徒の居場所がある。	54	28	18		生 26

保護者回答集計

回答数 70 (提出率 18%)

A: 肯定的回答(よくあてはまる・ややあてはまる)

(肯定的-否定的)前年度との比較・・・10%↑、20%↑↑

-10%↓、-20%↓↓

B: わからない

検討・・・裏面にコメントを掲載している項目

C: 否定的回答(あまりあてはまらない・まったくあてはまらない)

(数値は%)

	設 問	A	B	C	比較	検討
1	入学前、本校について十分調べて受験させた。	65	7	28		
2	受検は、本人の意志で決めた。	94	3	3		
3	学校に行くのは楽しいようだ。	59	7	34		保 3
4	学校は、コース選択や単位取得、選択科目、履修などについてわかりやすく伝えている。	73	10	17	↑↑	保 4
5	学校は、単位制としての教育方針をわかりやすく伝えている。	77	9	14	↑↑	保 5
6	学校の授業の内容はわかりやすいようだ。	74	0	26	↑↑	
7	学校の授業中は、落ち着いて学習できるようだ。	60	19	21	↑↑	
8	ゼロ時限目の授業を受けさせたいと思う。	51	21	28	↑↑	
9	土曜講座を受けさせたいと思う。	39	28	33	↑	
10	生徒の興味や関心、進路希望に応じて選べる選択科目がある。	51	32	17	↑↑	保 10
11	担任その他の教員に相談しやすい。	67	12	21		保 11
12	学校の様子を懇談や配布プリントなどによって知ることができる。	67	7	26	↑↑	
13	学校の授業参観や体育祭文化祭等に参加したい。	51	15	34	↑↑	保 13
14	学校は、奨学金制度についてきちんと説明している。	70	14	16	↑	保 14
15	学校は、就職や進学について、適切な指導を行っている。	68	18	14		保 15
16	学校の生徒指導の方針は理解できる。	82	7	11	↑	保 16
17	学校給食(17時50分～18時05分)を食べさせたいと思う。	31	18	51		
18	学校は命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会を作っている。	53	30	17		保 18
19	学校は、災害時の対応や防災や防犯等の安全確保について伝えている。	58	25	17		保 19
20	保護者同士の交流があったらいいと思う。	21	19	60		保 20
21	学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。	71	10	19		
22	本校に通学することで日常生活により影響を与えているようだ。	64	14	22		

評価結果を受けての各分掌等での検討事項(抜粋)

教務部

- ・(生 4、保 4・5) 肯定的回答増加。今年度から、合格者・新入生・通信オリエンテーション学校説明会等においてスライドを用いて説明。本校独特のシステムをいかにわかりやすく伝えるかを意識した結果である。
- ・(生 6) 肯定的回答が増加。スライド等 ICT 機器の活用や視聴覚的教材を取り入れた工夫した授業が各教科で昨年度以上に実施され、効果的である。
- ・(生 11・12) 肯定的回答が減少。ゼロ時限目や土曜講座については、仕事等と両立している生徒は受講が困難であるため、やむを得ない結果となっている。また、受講人数は、卒業に必要な単位を修得するために受講する上級生が多いが、下級生は、少ない。ゼロ時限目は、就職や進学に生かすことができる講座などが充実しているため、生徒へ具体的な講座内容を案内するなど周知方法の改善をしていきたい。

生徒指導部

- ・(生 3・保 3) 生徒の否定的回答が大幅に減少していることは前向きに受け止められる。わからないと回答している生徒が楽しいと感じられる学校づくりをめざす。
- ・(生 9) ここ数年授業規律に関する教員側の共通理解が深まってきており、授業が落ち着いて行われていると思われる。次の段階として、無気力な生徒が授業に参加することができるような指導を考えていきたい。
- ・(保 13) 学校行事に参加する保護者が増えていることは、保護者の目が子どもたちに向いていることの表れだと思われる。今後、講演会や避難訓練などに関しても、保護者に対して情報が届く発信方法を考える必要がある。
- ・(保 16) 生徒指導部の力だけではなく、担任が保護者と連絡を密にとっていることが、学校の指導方針の理解につながっている。

進路保健部

- ・(生 14・保 14) 奨学金について、周知の内容をわかりやすくしたり、説明会を実施するなど、昨年より7〜8ポイント肯定的が増加。
- ・(生 15・16) 進路について考える機会、進路情報の周知度については、昨年以上に力を注いだが肯定的回答は昨年と同じ、否定的回答はそれぞれ4ポイント7ポイント減少した効果しか出ていない。月1回程度の学年進路HRの継続的な実施や講演会、科目選択時に進学先に応じて必要な科目一覧を進路部から提供するなどで進路に関心のない生徒の割合を減らし卒業生の進路決定率を上げたい。
- ・(保 15) 適切な進路指導については肯定的回答が8ポイント増加。卒業学年担任団の進路指導によるところが大きい。
- ・(保 10) 保護者は15ポイントの大幅増。進路通信などの配布物による広報活動の成果と思われる。
- ・(生 22・保 19) 避難訓練を春、秋各1回と今年度は、ワンポイント避難訓練(部分訓練)を2回実施した。さらに工夫、改善をしていき、災害に少しでも対応することができるようにしていきたい。
- ・別室登校の生徒は他の生徒との関わりが苦手であり、着席の状況も気にする者も多く、座席について今後も配慮が必要で、当該生徒数が増加時には新たな部屋を確保することが課題である。

各教科、学年等

- ・(生 6) 教材内容、指導方法を、教科内で何度も検討した結果が表れている(国語)。
- ・前年度に比べると、計画的に実験を行うことができた。(理科)
- ・(生 7) 1年での少人数展開授業で一人ひとりきめ細かく指導できたことにより、生徒のつまづきを早期発見できている。(数学)
- ・(生 7・8) よりわかりやすい授業をめざして、今後も基礎的な学力を着実に身につけられるような指導法を検討し生徒に興味関心を持たせ積極的に参加したくなるような授業展開を心掛ける。(国語、社会、数学、理科、芸術、英語、家庭)

- ・担当者1人では指導が全体に行き届かず、担当人数を増やし丁寧な指導を行うことで落ち着いた授業環境を確保していきたい。(保健体育)
- ・週1回T-NET(外国人英語講師)が派遣され、生徒たちから話しかけていくなど、英語力、異文化との触れ合いにおいて大きな意味があった。(英語)
- ・今後も引き続き、「日本語ワープロ検定試験(日検)」など就職先で活用できるコンピュータ関連の資格修得につながるような実技指導を授業等で行う。(情報)
- ・(生17・18)夏休みは生徒が「チラシではっちゃんお!」で、「神奈川沖浪裏」(富嶽三十六景 葛飾北斎)を制作し、明月祭、「青年祭」(寝屋川市教育委員会主催)に出展した。また、明月祭ではクラスの企画を考え、積極的に参加した。体育祭でも出場種目の調整などをHRで実施したことが、肯定的評価にあらわれている。(1年)
- ・(保13)保護者の関心が学校に向いてきており、子どもの成長を学校生活の中で直接見る機会を増やすため、多くの保護者が学校行事や授業参観に出席する体制を作りたい。(1年)
- ・(保11)の「担任への相談」の肯定的回答が減っているため、生徒と懇談するだけでなく、保護者との懇談や連絡を密にする。(1年)
- ・(生9)「落ち着いて学習できる」は少し改善されたものの、依然として否定的な数字が全体の3分の1を占めていることは問題として捉えるべき。(2年)
- ・(生15)HR等で進路について考える機会はあるが、卒業することが精一杯で進路については漠然としている生徒が多い。否定的な数字は減っているが「わからない」の生徒の数値を下げるができるよう、今後、進路について考えることができるようなHRを行っていきたい。(3年)
- ・(保)肯定的な意見が多く、特に15は学年で連携して指導を行えたことが表れている。(4年)

PTA 定時制委員会

- ・(保13)学校行事への参加が大幅に増えた。さらに保護者の関心を学校に向けていきたい。
- ・年間5回の会議を開き、定時制委員会の活動が充実し、活動内容の点検や今後の予定を協議した。
- ・(保20)保護者交流会の開催実績により、保護者同士の交流希望が16%から21%に増加している。今後も参加人数を増やし、保護者の意見が学校に直接届く体制を作る。
- ・生徒の命と安全を守るための方策(防災等)をPTA定時制委員会で考える。

人権教育推進委員会

今年度の実施改善状況

- ・(生21・保18)4年間を見据えた人権HR計画を作成し、1年は自分の権利、2年は他人の権利、3年は就職問題、4年は被災地を通じてという題目で実施した。また、全学年対象の講演会として、菊地里帆子氏を招き「星に願いを」という演題で、命の大切さを学んだ結果があらわれている。

教育相談委員会

- ・(生24・26)ほぼ横ばいであり、もっと相談体制を周知することが必要で、配布物等でアナウンスし、「一人で悩まずに学校の先生に相談できる体制」を今後もつくっていきたい。
- ・(保11)約7割の肯定的な意見があり、各担任から日々の家庭連絡やSCの活用等が表れている数字ではあるが、保護者へ教育相談関係の案内を強化し、更なる向上がめざしていきたい。

情報処理委員会

- ・本校HPの更新頻度を増やし、内容を充実させることができ、今後もHPによる情報発信を充実させる。